

北区外国人意識・意向調査 報告書
(概要版)

令和2年(2020年)3月

北区

目次

第1章 調査概要	1
第2章 調査結果	
Ⅰ. 回答者の基本属性について	4
Ⅱ. ことばについて	9
Ⅲ. 暮らしについて	15
Ⅳ. 地震、台風等への対応について	23
Ⅴ. 子育てや教育について	25
Ⅵ. 多文化共生社会について	28

第1章 調査概要

1. 調査の目的

外国人区民の生活の実態や区に対する意見・要望を把握し、今後の多文化共生のまちづくりに役立てることを目的としている。

2. 調査の設計

項目	内容										
調査地域	区内全域										
調査期間	令和元年11月18日(月)～12月13日(金)										
調査対象	区内在住の20歳以上の外国人区民										
標本数	2,000人 ※内訳は以下のとおり。 <table border="1"><thead><tr><th>国籍・出身地</th><th>対象者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>中国または台湾</td><td>1,000人</td></tr><tr><td>韓国または朝鮮</td><td>250人</td></tr><tr><td>ベトナム</td><td>200人</td></tr><tr><td>その他</td><td>550人</td></tr></tbody></table>	国籍・出身地	対象者数	中国または台湾	1,000人	韓国または朝鮮	250人	ベトナム	200人	その他	550人
国籍・出身地	対象者数										
中国または台湾	1,000人										
韓国または朝鮮	250人										
ベトナム	200人										
その他	550人										
抽出方法	住民基本台帳から層化二段無作為抽出										
調査方法	自記式調査票による郵送配付、郵送回収 ※調査票は、日本語版調査票(ルビ付・やさしい日本語)と外国語版調査票(言語別)を作成し、調査対象者別に、以下のとおり配付した。 <table border="1"><thead><tr><th>国籍・出身地</th><th>調査票種別</th></tr></thead><tbody><tr><td>中国または台湾</td><td>日本語版調査票 外国語版調査票(中国語)</td></tr><tr><td>韓国または朝鮮</td><td>日本語版調査票 外国語版調査票(ハングル)</td></tr><tr><td>ベトナム</td><td>日本語版調査票 外国語版調査票(ベトナム語)</td></tr><tr><td>その他</td><td>日本語版調査票 外国語版調査票(英語)</td></tr></tbody></table>	国籍・出身地	調査票種別	中国または台湾	日本語版調査票 外国語版調査票(中国語)	韓国または朝鮮	日本語版調査票 外国語版調査票(ハングル)	ベトナム	日本語版調査票 外国語版調査票(ベトナム語)	その他	日本語版調査票 外国語版調査票(英語)
国籍・出身地	調査票種別										
中国または台湾	日本語版調査票 外国語版調査票(中国語)										
韓国または朝鮮	日本語版調査票 外国語版調査票(ハングル)										
ベトナム	日本語版調査票 外国語版調査票(ベトナム語)										
その他	日本語版調査票 外国語版調査票(英語)										

3. 回収結果

発送数	回収数	有効回収率
2,000件	618件	30.9%

※ 回収された調査票の種類は、日本語版が 359 件、中国語版が 148 件、ハングル版が 10 件、ベトナム語版が 24 件、英語版が 77 件だった。

4. 調査内容

i 回答者の基本属性について	
(1) 性別	(5) 日本での居住期間
(2) 年齢	(6) 北区での居住期間
(3) 国籍または出身地	(7) 同居家族または同居人
(4) 在留資格	(8) 職業
ii ことばについて	
(1) 話すことができることば	(3) 日本語の学習方法
(2) 日本語能力の程度	(4) 日本語で困ること
iii 暮らしについて	
(1) 北区の暮らしやすさ	(6) 生活するうえでの必要な情報
(2) 北区の良い点・悪い点	(7) 日本人とのトラブルの経験
(3) 北区で生活するうえで困っていること	(8) 日本人からの差別の有無及び状況
(4) 生活で困ったときの相談先	(9) 日本人にしてほしいこと
(5) 知りたい情報の入手方法	
iv 地震、台風等への対応について	
(1) 地震、台風等の発生時に不安なこと	(3) 北区が必要な対応
(2) 避難場所の認知度	
v 子育てや教育について	
(1) 15歳以下の子どもの有無	(4) 通っている小中学校
(2) 通園、通学の有無	(5) 学校で困っていること
(3) 保育園、幼稚園で困っていること	(6) 子育てで困っていること
vi 多文化共生社会について	
(1) 日本人と生活するためにできること	(2) 北区への要望
vii 自由意見	

5. 調査結果の見方

- ① 図表中の“n”とは、各設問の回答者数をいう。
- ② 回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで記載している。従って、合計が100%にならない場合がある。
- ③ 性別、年齢等の基本属性の設問に無回答である対象者がいるため、各基本属性の回答者数の合計が全体の回答者数と一致していない場合がある。
- ④ 回答者数が30に満たないものについては、比率が上下しやすいため、図示するにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ⑤ 本文中で百分率の比較をする際は、「ポイント」と表記している。
- ⑥ 本文、表、グラフは、表記の都合上、選択肢の文言を一部簡略化している場合がある。
- ⑦ 統計数値を考察するにあたっての表現について、概ね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0%～20.4%	2割
20.5%～20.9%	ほぼ2割
21.0%～23.9%	2割を超える
24.0%～26.4%	2割半ば
26.5%～28.9%	3割近く
29.0%～29.4%	ほぼ3割
29.5%～29.9%	3割

第2章 調査結果

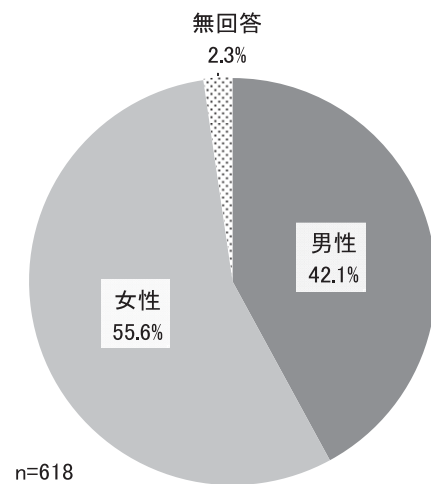
I. 回答者の基本属性について

(1) 性別

表 I - 1. 性別

項目	回答者数	割合
男性	260	42.1%
女性	344	55.6%
無回答	14	2.3%

図 I - 1. 性別

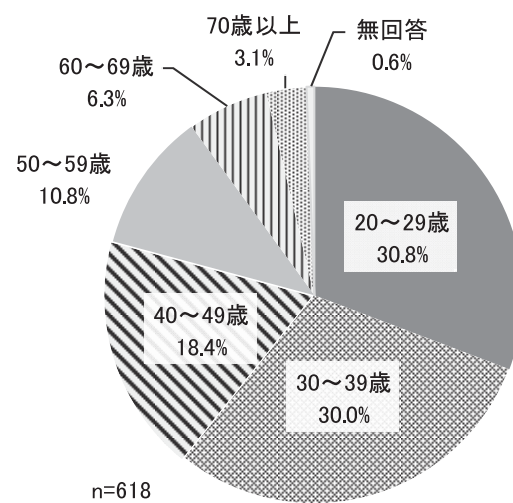


(2) 年齢

表 I - 2. 年齢

項目	回答者数	割合
20～29歳	190	30.8%
30～39歳	185	30.0%
40～49歳	114	18.4%
50～59歳	67	10.8%
60～69歳	39	6.3%
70歳以上	19	3.1%
無回答	4	0.6%

図 I - 2. 年齢



(3) 国籍または出身地

表 I - 3. 国籍・出身地

項目	回答者数	割合
中国・台湾	345	55.8%
韓国・朝鮮	80	12.9%
ベトナム	51	8.3%
フィリピン	31	5.0%
ミャンマー	18	2.9%
ネパール	16	2.6%
アメリカ合衆国	11	1.8%
バングラデシュ	10	1.6%
フランス	9	1.5%
タイ	8	1.3%
インド	7	1.1%
その他	32	5.2%

図 I - 3. 国籍・出身地

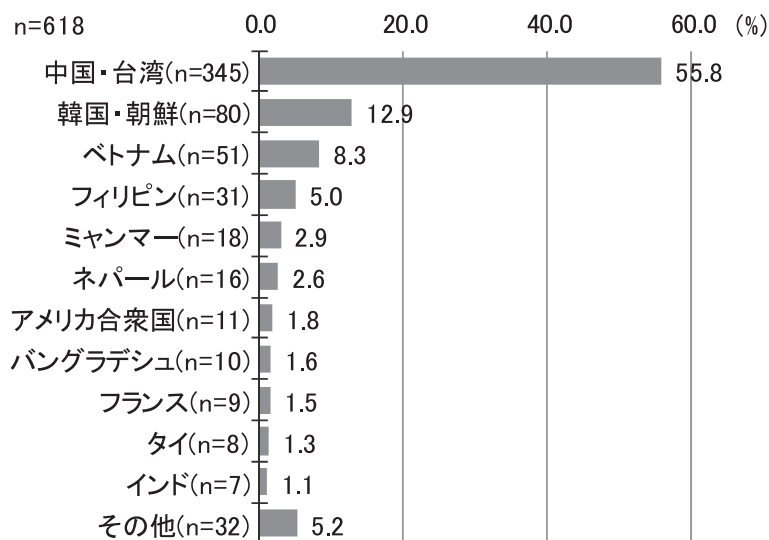


表 I - 4. 「その他」の国籍・出身地

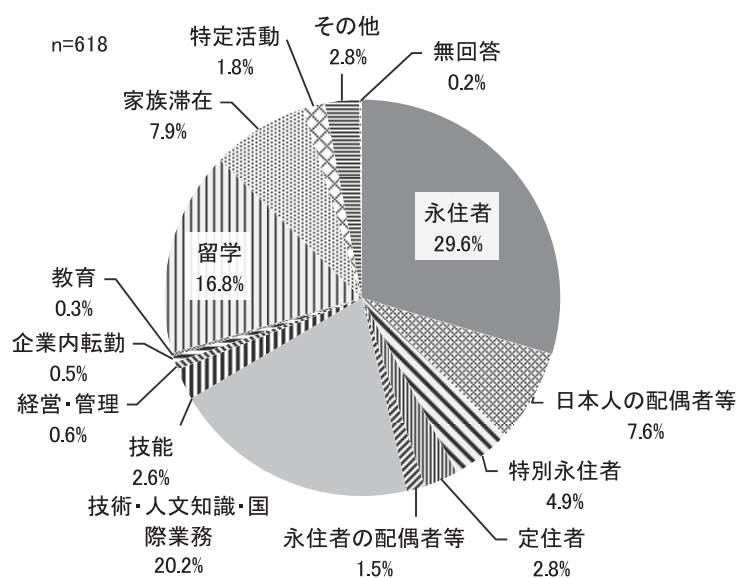
国籍・出身地	人数	国籍・出身地	人数
ブラジル	4	スーダン	1
ドイツ	3	スペイン	1
ロシア	3	スリランカ	1
イギリス	2	ノルウェー	1
マレーシア	2	パキスタン	1
モンゴル	2	ハンガリー	1
インドネシア	1	ペルー	1
ウズベキスタン	1	メキシコ	1
オーストラリア	1	ラオス	1
カナダ	1	無回答	2
コロンビア	1	合計	32

(4) 在留資格

表 I - 5. 在留資格

項目	回答者数	割合
永住者	183	29.6%
日本人の配偶者等	47	7.6%
特別永住者	30	4.9%
定住者	17	2.8%
永住者の配偶者等	9	1.5%
技術・人文知識・国際業務	125	20.2%
技能	16	2.6%
経営・管理	4	0.6%
企業内転勤	3	0.5%
教育	2	0.3%
留学	104	16.8%
家族滞在	49	7.9%
特定活動	11	1.8%
その他	17	2.8%
無回答	1	0.2%

図 I - 4. 在留資格



(5) 日本での居住期間

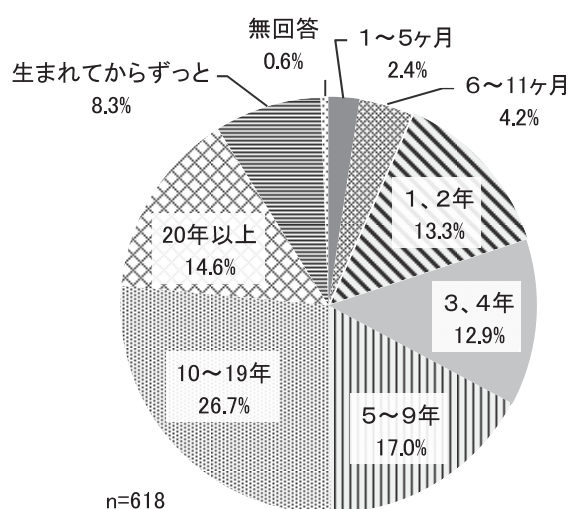
◆「10～19年」が最も多く、1年未満は1割に満たない

「10～19年」が26.7%と最も多く、次いで、「5～9年」(17.0%)、「20年以上」(14.6%)と続いている。

表 I - 6. 日本での居住期間

項目	回答者数	割合
1～5ヶ月	15	2.4%
6～11ヶ月	26	4.2%
1、2年	82	13.3%
3、4年	80	12.9%
5～9年	105	17.0%
10～19年	165	26.7%
20年以上	90	14.6%
生まれてからずっと	51	8.3%
無回答	4	0.6%

図 I - 5. 日本での居住期間



(6) 北区での居住期間

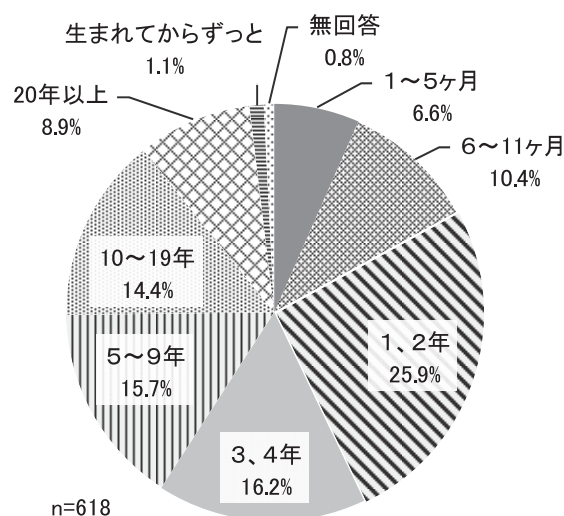
◆「1～2年」が最も多く、1年未満が比較的少ない

「1～2年」が25.9%と最も多く、次いで、「3～4年」(16.2%)、「5～9年」(15.7%)、「10～19年」(14.4%)と続いている。

表 I - 7. 北区での居住期間

項目	回答者数	割合
1～5ヶ月	41	6.6%
6～11ヶ月	64	10.4%
1、2年	160	25.9%
3、4年	100	16.2%
5～9年	97	15.7%
10～19年	89	14.4%
20年以上	55	8.9%
生まれてからずっと	7	1.1%
無回答	5	0.8%

図 I - 6. 北区での居住期間



(7) 同居家族または同居人

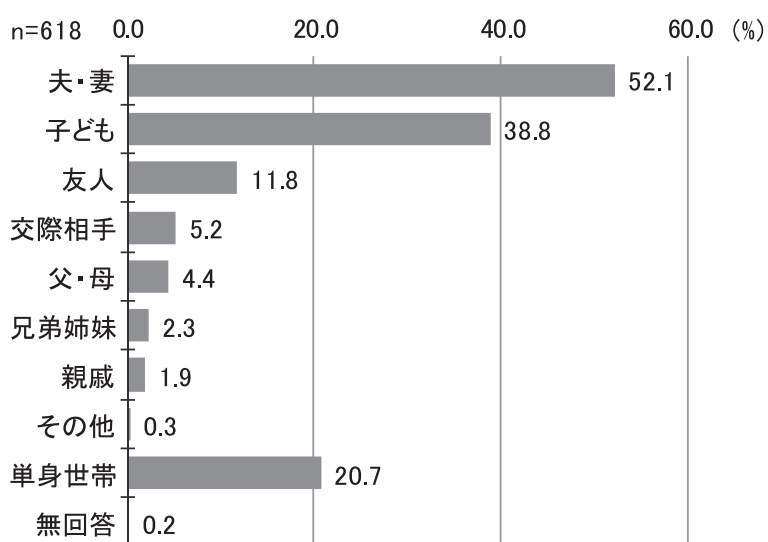
◆家族等と同居が8割、単身世帯は2割

「夫・妻」が52.1%と最も多く、次いで、「子ども」が38.8%、「友人」が11.8%と続いている。

表 I - 8. 同居家族または同居人

項目	回答者数	割合
夫・妻	322	52.1%
子ども	240	38.8%
友人	73	11.8%
交際相手	32	5.2%
父・母	27	4.4%
兄弟姉妹	14	2.3%
親戚	12	1.9%
その他	2	0.3%
単身世帯	128	20.7%
無回答	1	0.2%

図 I - 7. 同居家族または同居人



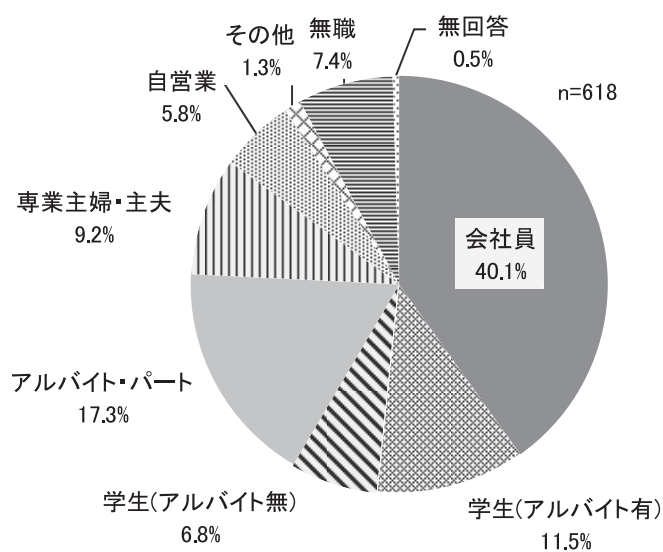
(8) 職業

◆「会社員」が4割、「学生」「アルバイト・パート」が2割近く

表 I - 9. 職業

項目	回答者数	割合
会社員	248	40.1%
学生 (アルバイト有)	71	11.5%
学生 (アルバイト無)	42	6.8%
アルバイト・パート	107	17.3%
専業主婦・主夫	57	9.2%
自営業	36	5.8%
その他	8	1.3%
無職	46	7.4%
無回答	3	0.5%

図 I - 8. 職業



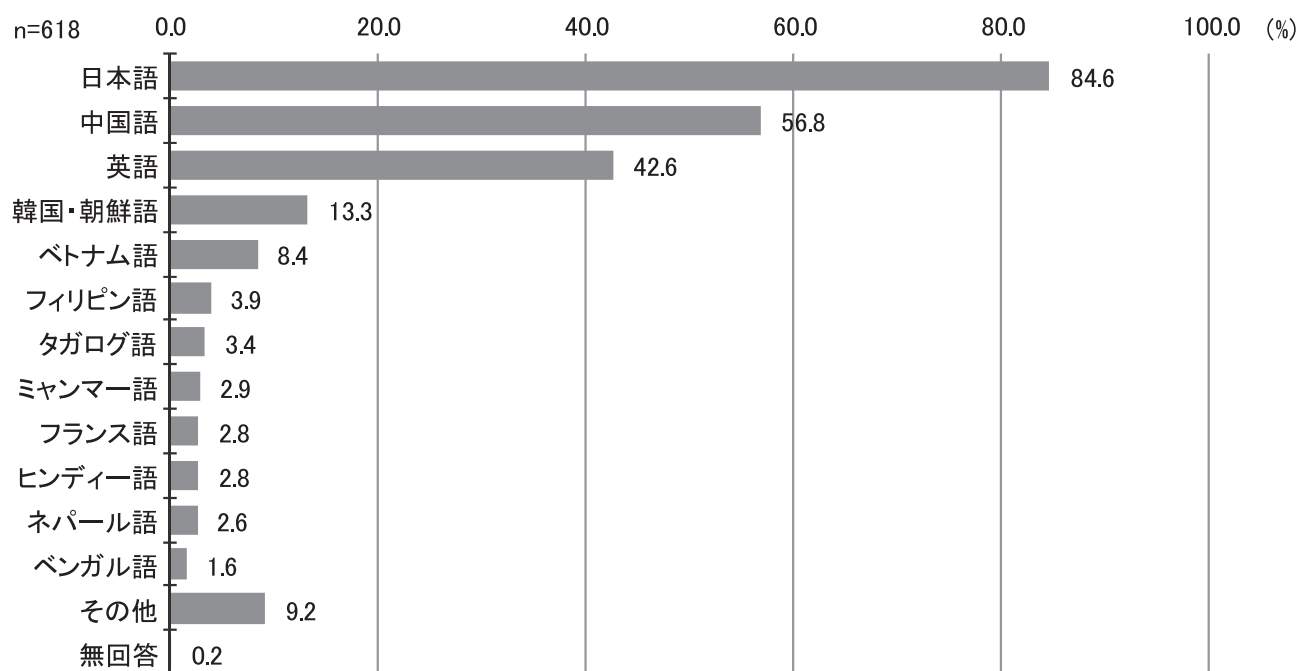
Ⅱ. ことばについて

(1) 話すことができることば

◆ 「日本語」が8割半ば、「英語」が4割を超える

「日本語」が84.6%と最も多く、次いで、「中国語」(56.8%)、「英語」(42.6%)、「韓国・朝鮮語」(13.3%)と続いている。

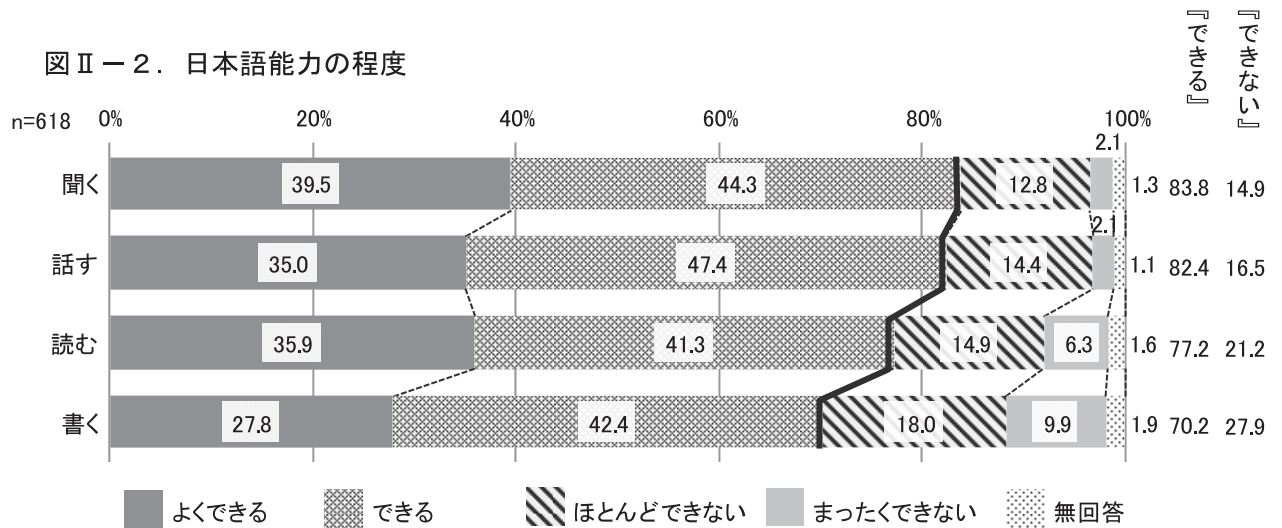
図Ⅱ－1. 話すことができることば



(2) 日本語能力の程度

◆全ての項目に対して『できる』が7～8割

「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の順に割合は下がるものの、7～8割が『できる』と回答している。



『できる』 = 「よくできる」 + 「できる」

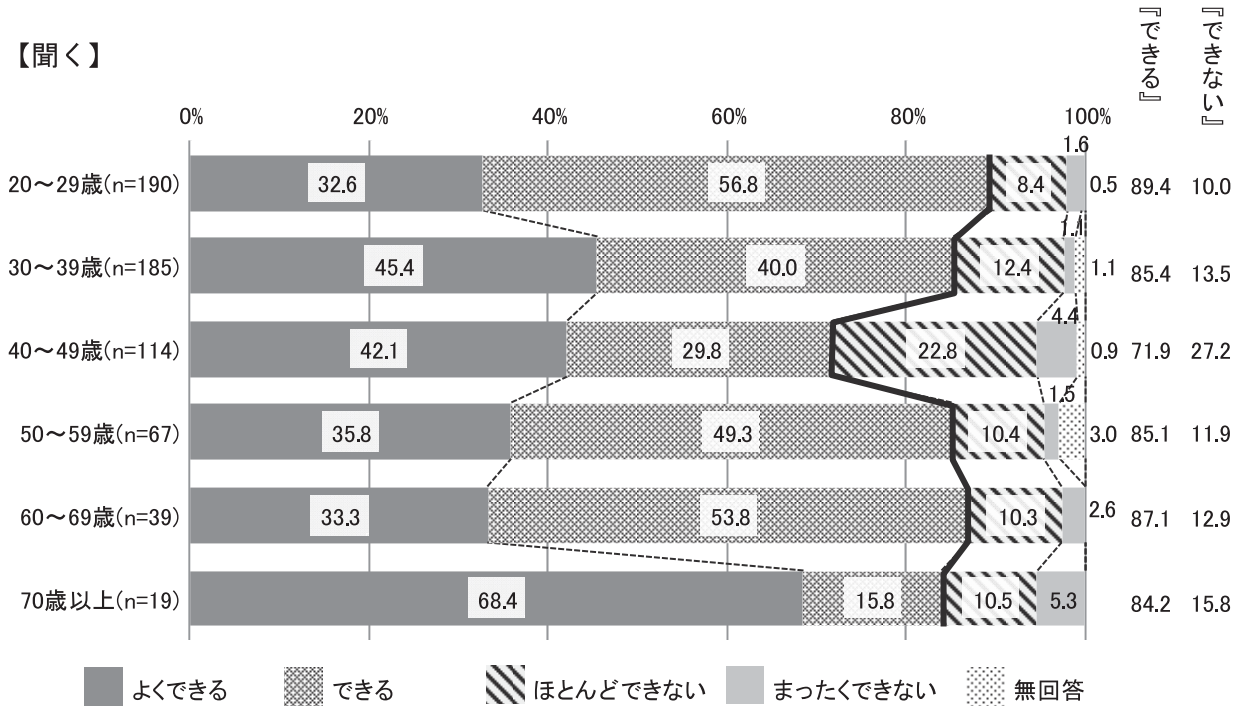
『できない』 = 「ほとんどできない」 + 「まったくできない」

【年齢別】

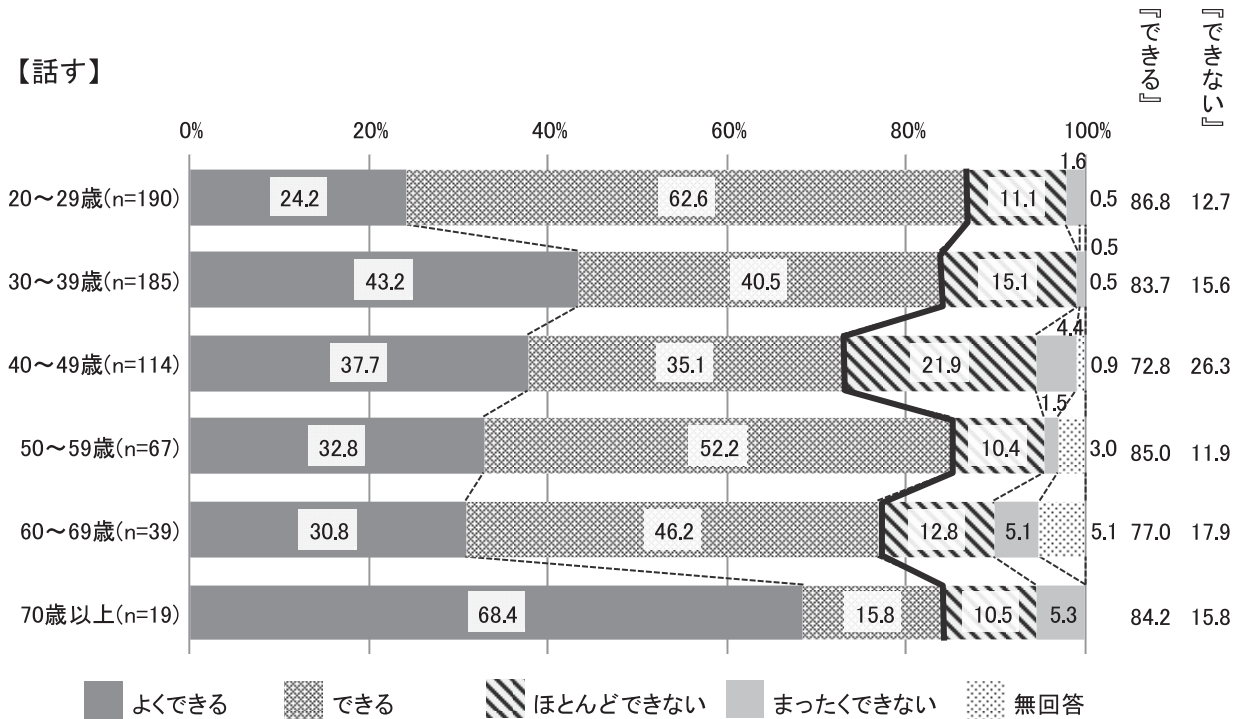
『できる』の割合は、20代では、すべての項目で85%を上回っている。また、70歳以上も「書く」を除く3項目が、いずれも84.2%と高く、特に、「読む」、「書く」は他の年代と比較しても高い割合となっている。

図Ⅱ－３．日本語能力の程度（年齢別）

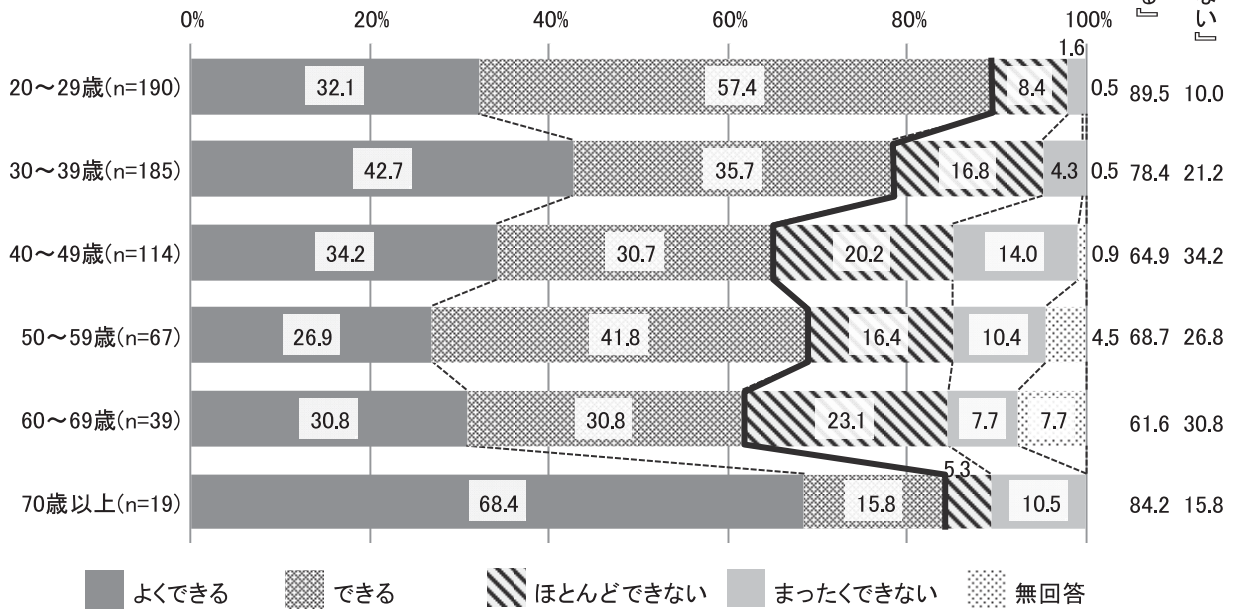
【聞く】



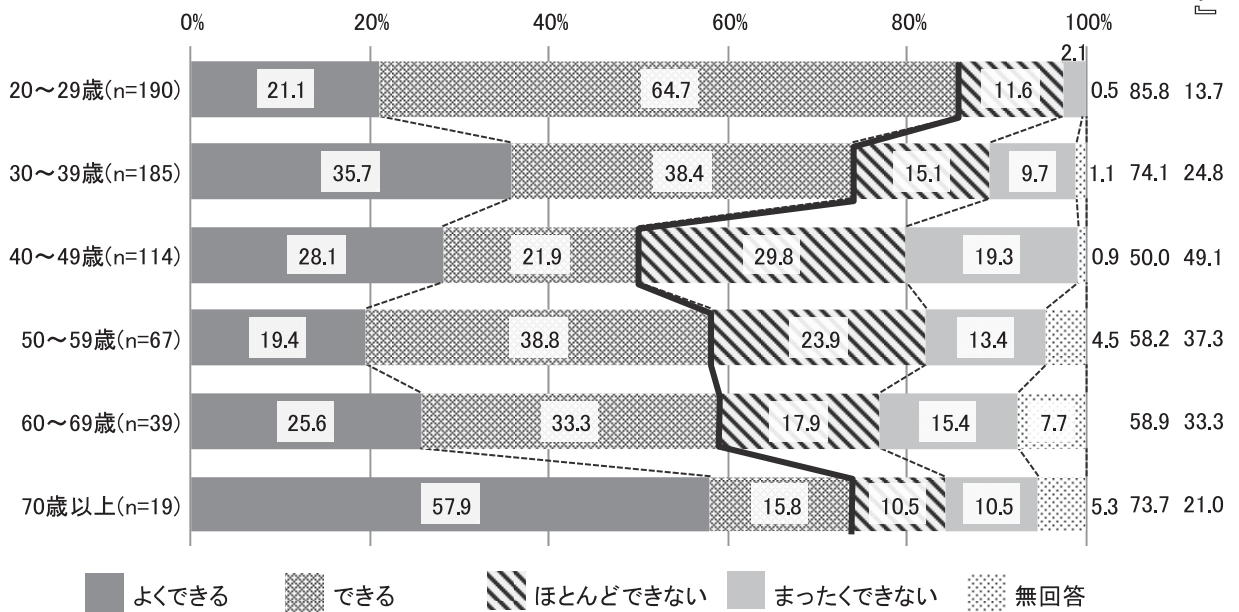
【話す】



【読む】



【書く】



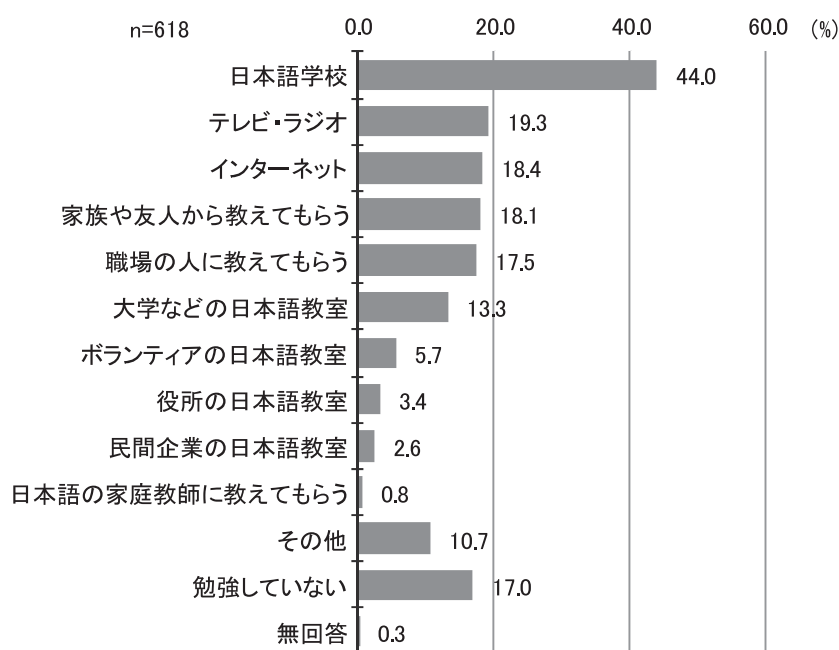
(3) 日本語の学習方法

◆「日本語学校」が4割半ば

「日本語学校」が44.0%と最も多く、次いで、「テレビ・ラジオ」(19.3%)、「インターネット」(18.4%)と続いている。

「その他」としては、「独学」が多く、それ以外には、「来日前に大学の日本語学科等で勉強した」などがある。

図Ⅱ－4. 日本語の学習方法

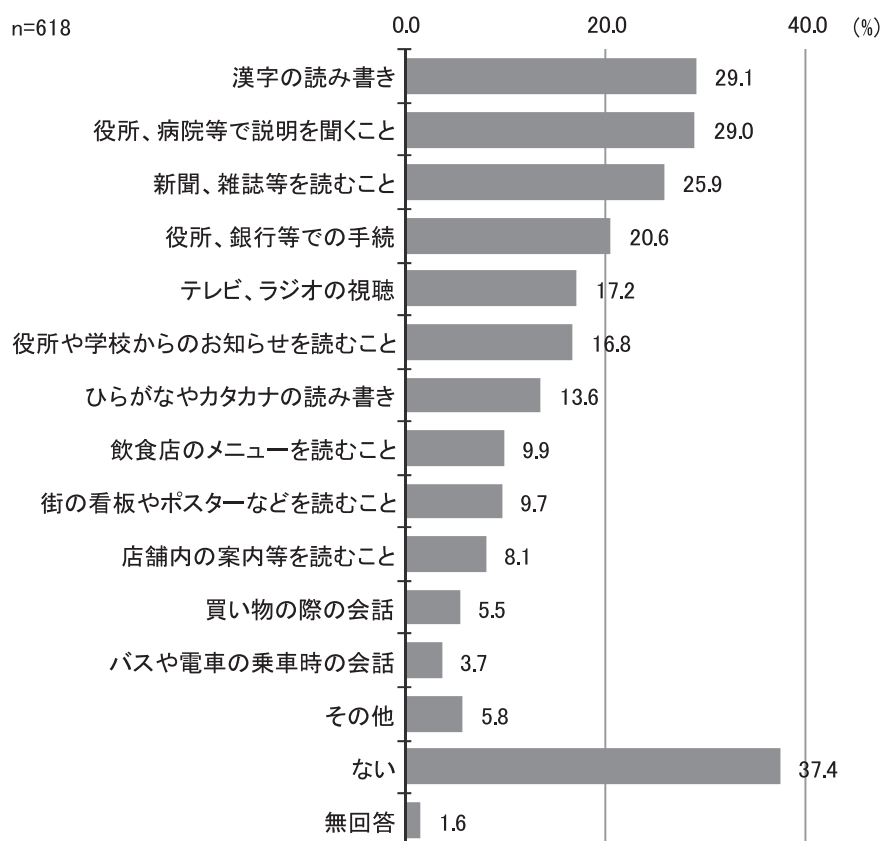


(4) 日本語で困ること

◆「漢字の読み書き」や「役所、病院等で説明を聞くこと」に困る

困ることとしては、「漢字の読み書き」(29.1%)が最も多く、次いで「役所、病院等で説明を聞くこと」(29.0%)と続いている。

図Ⅱ-5. 日本語で困ること



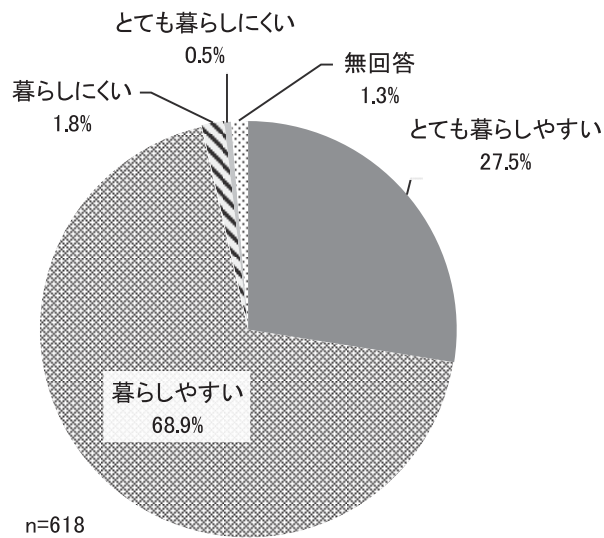
Ⅲ. 暮らしについて

(1) 北区の暮らしやすさ

◆『暮らしやすい』が9割半ば

「暮らしやすい」が68.9%と最も多く、「とても暮らしやすい」(27.5%)と続いている。

図Ⅲ-1. 北区の暮らしやすさ



『暮らしやすい』 = 「とても暮らしやすい」 + 「暮らしやすい」

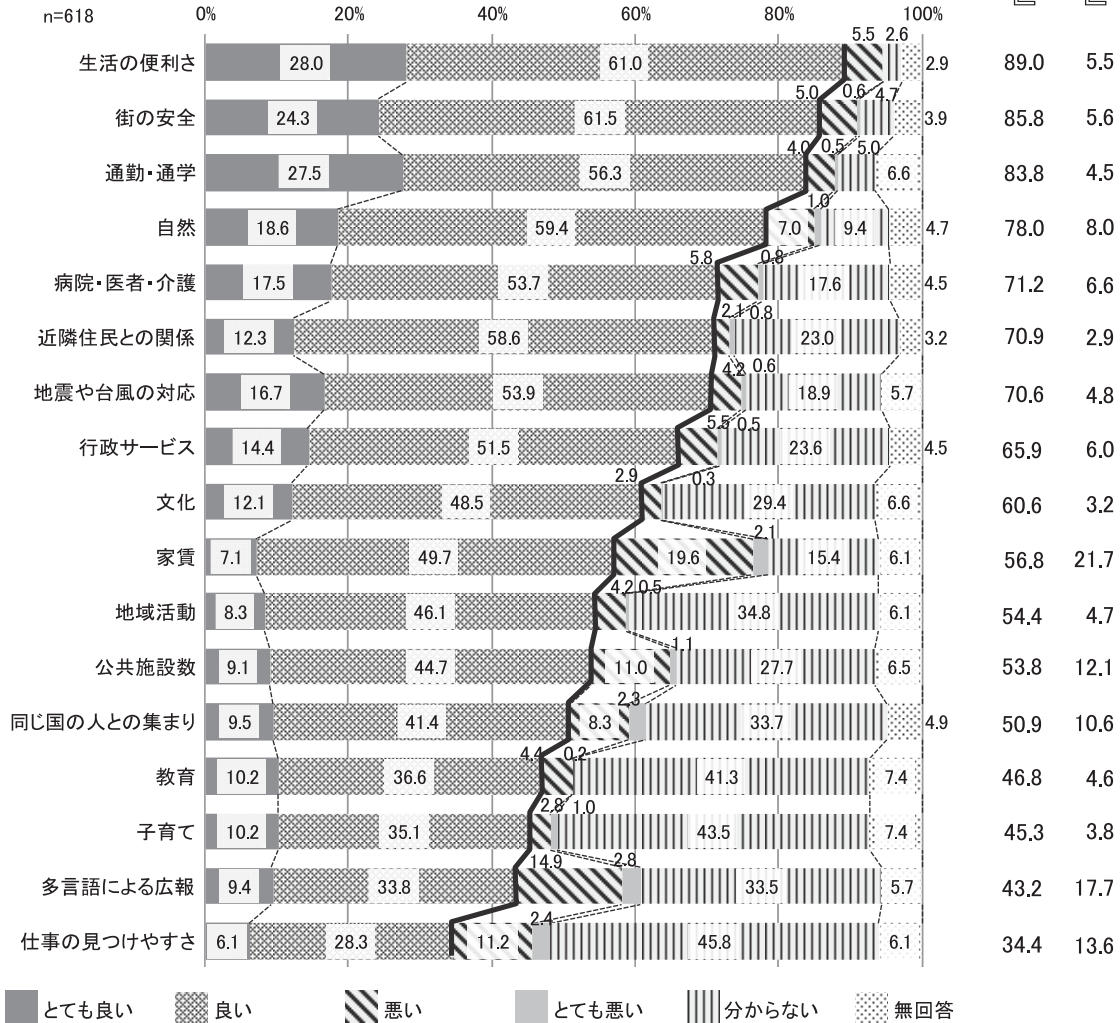
『暮らしにくい』 = 「暮らしにくい」 + 「とても暮らしにくい」

(2) 北区の良い点・悪い点

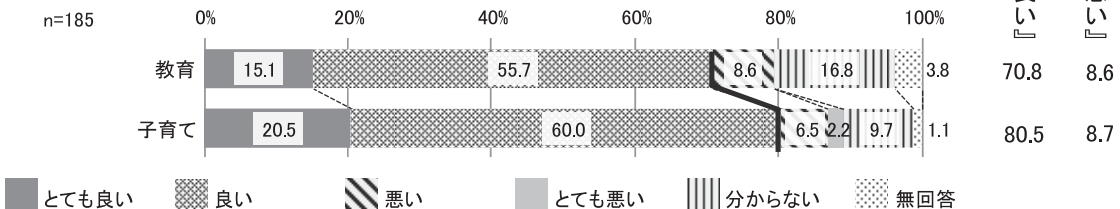
◆「生活の便利さ」や「街の安全」が『良い』

全ての項目で『良い』が『悪い』を上回っている一方で、「家賃」や「多言語による広報」については、比較的『悪い』割合が高い。

図Ⅲ-2. 北区で生活するうえで良い点、悪い点



【15歳以下の子供がいる場合】



『良い』 = 「とても良い」 + 「良い」

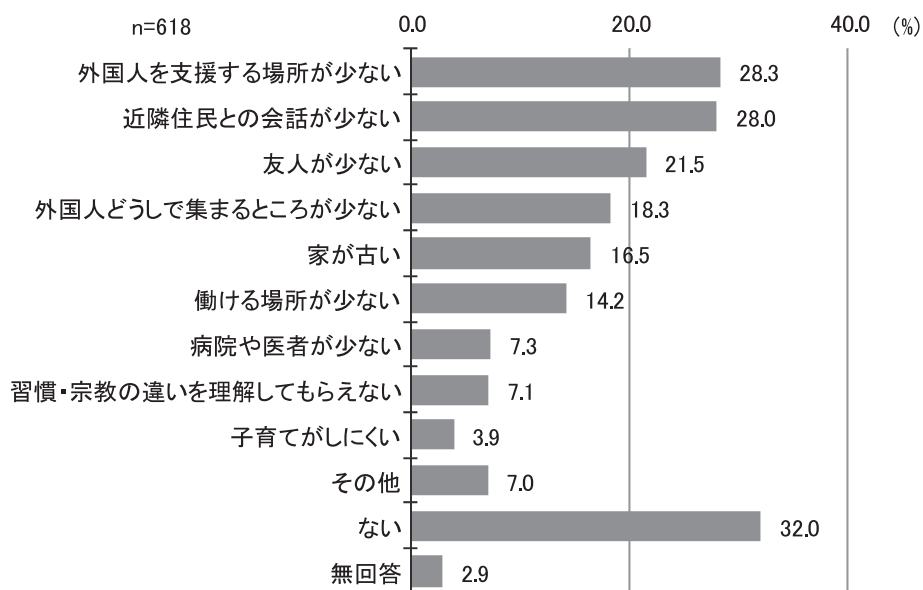
『悪い』 = 「悪い」 + 「とても悪い」

(3) 北区で生活するうえで困っていること

◆「外国人の支援場所」や「近隣住民との会話」が少ないことが困る

困ることとしては、「外国人を支援する場所が少ない」(28.3%)が最も多く、次いで「近隣住民との会話が少ない」(28.0%)と続いている。

図Ⅲ－３．北区で生活するうえで困っていること

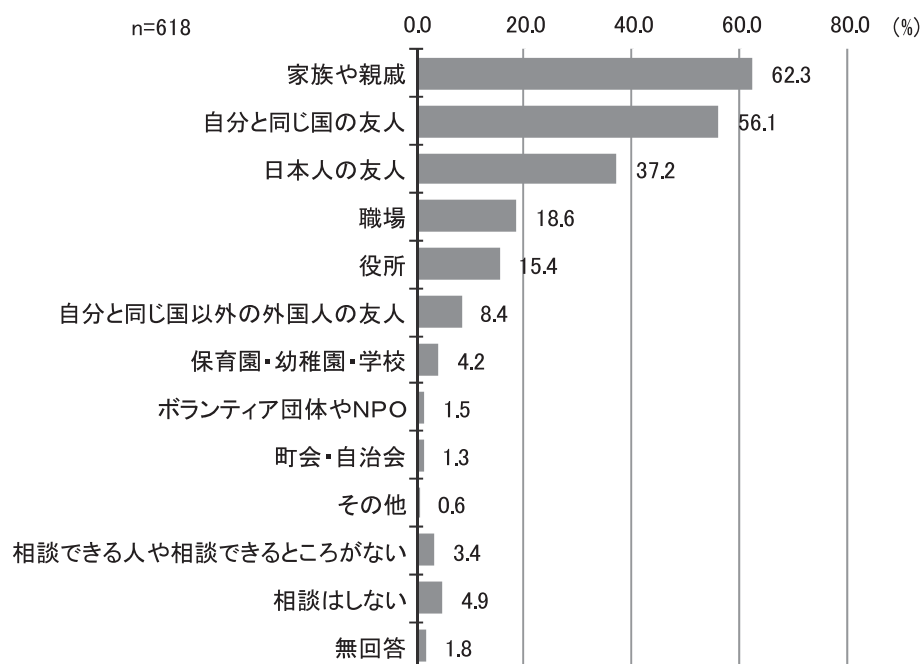


(4) 生活で困ったときの相談先

◆困りごとの相談先は、同国人や日本人の友人が多い

「家族や親戚」が 62.3%で最も多く、次いで、「自分と同じ国の友人」(56.1%)、「日本人の友人」(37.2%)の順となっている。

図Ⅲ－４．生活で困ったときの相談先

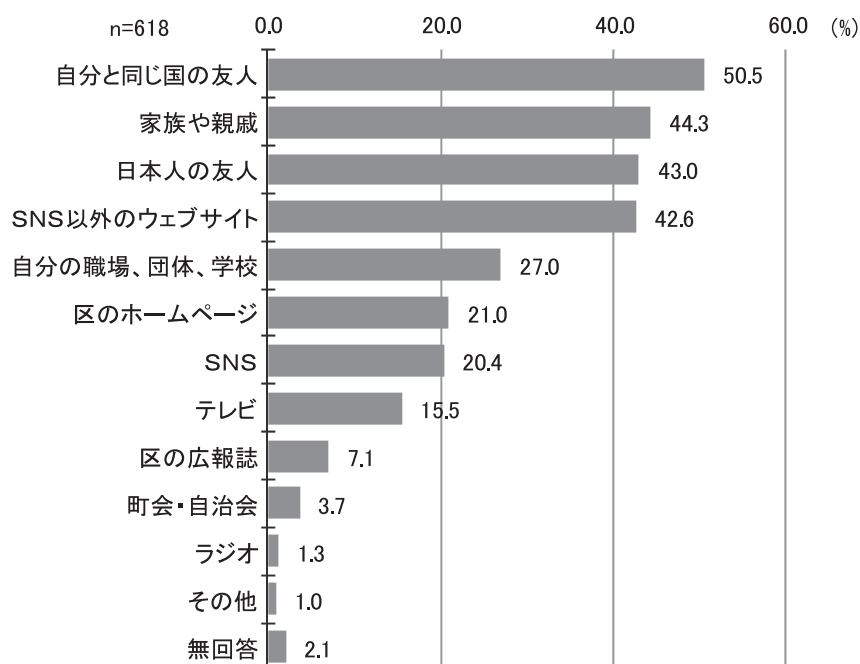


(5) 知りたい情報の入手方法

◆同国人や日本人のネットワーク及びインターネットを活用する

「自分と同じ国の友人」が 50.5%を占め、次いで、「家族や親戚」(44.3%)、「日本人の友人」(43.0%)、「SNS以外のウェブサイト」(42.6%)、「自分の職場、団体、学校」(27.0%)の順となっている。

図Ⅲ－５．知りたい情報の入手方法

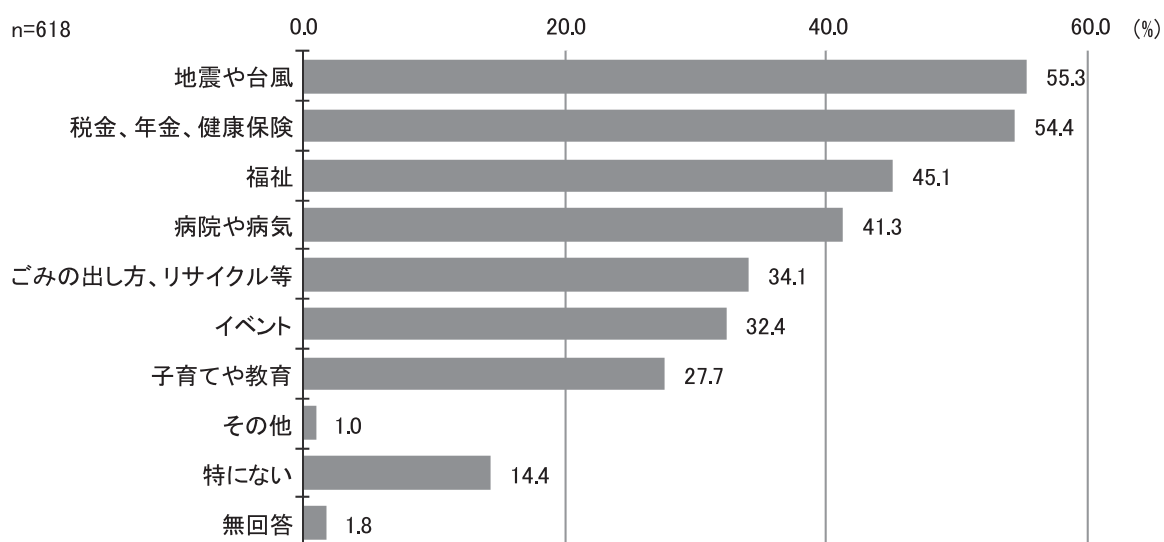


(6) 生活するうえでの必要な情報

◆「地震や台風」や「税金、年金、健康保険」が半数を超える

「地震や台風」(55.3%)が最も多く、次いで、「税金、年金、健康保険」(54.4%)、「福祉」(45.1%)、「病院や病気」(41.3%)と続いている。

図Ⅲ－6. 生活するうえでの必要な情報

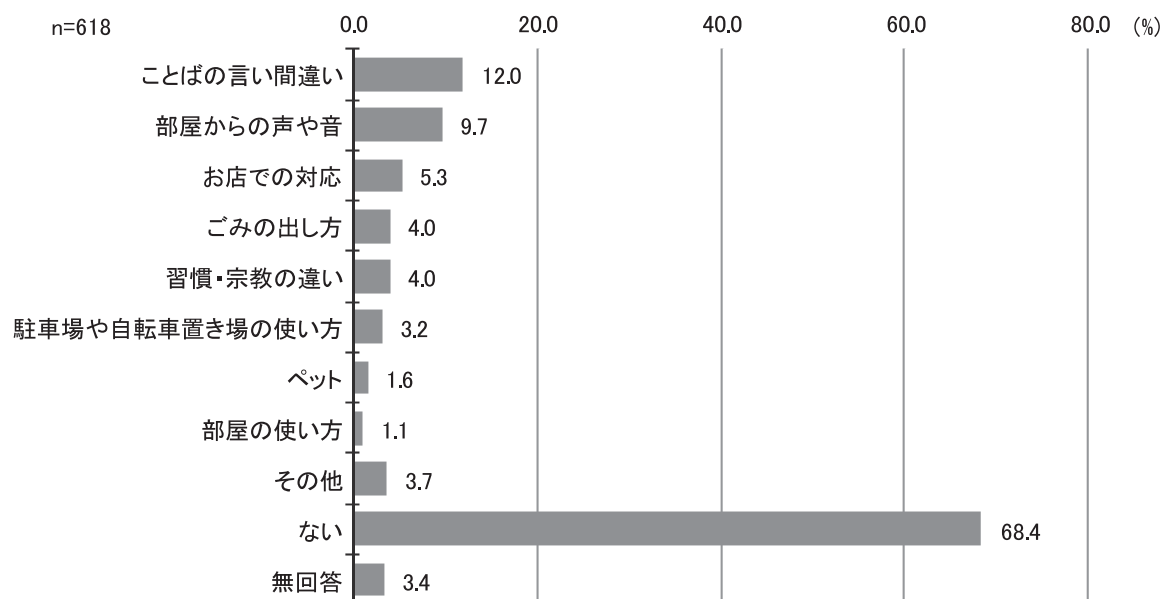


(7) 日本人とのトラブルの経験

◆「ない」が最も多い

「ない」が68.4%と最も多い。トラブルの原因としては、「ことばの言い間違い」が12.0%と最も高く、「部屋からの声や音」(9.7%)、「お店での対応」(5.3%)と続いている。

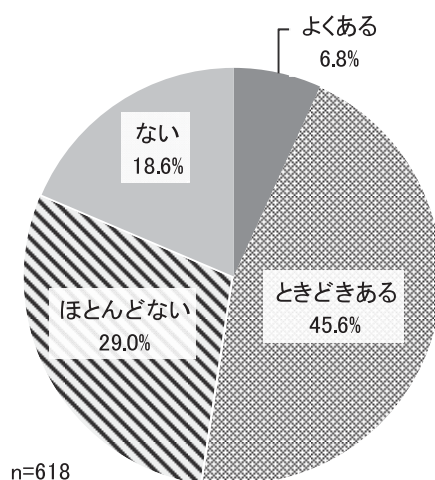
図Ⅲ－7. 日本人とのトラブルの経験



(8) 日本人からの差別の有無及び状況

◆『ある』が半数を超える

図Ⅲ－８．日本人からの差別の有無



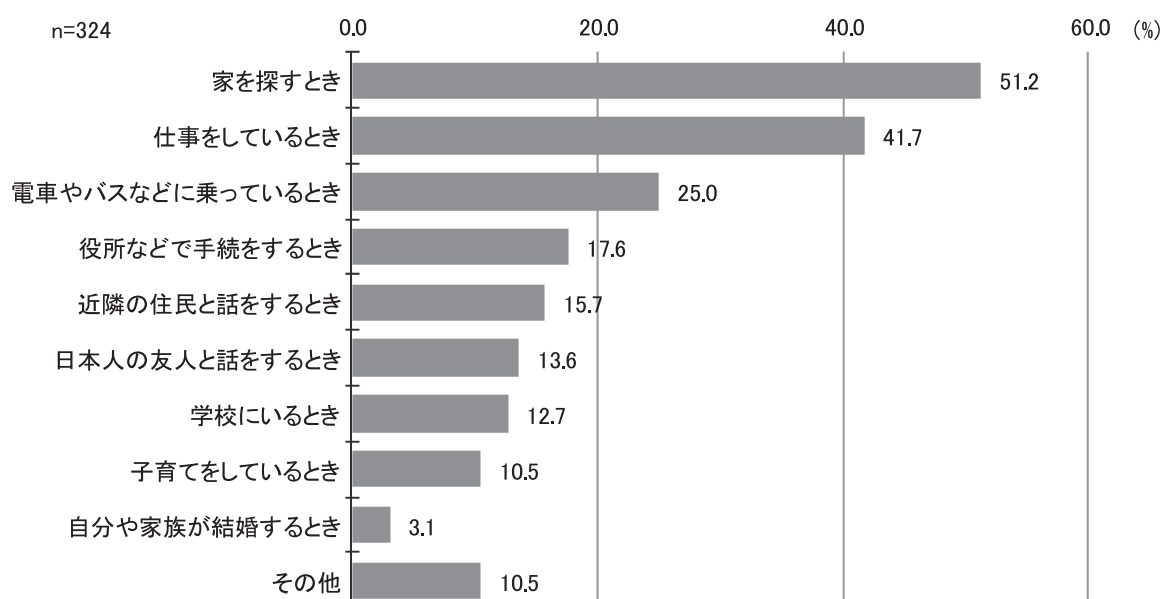
『ある』 = 「よくある」 + 「ときどきある」

『ない』 = 「ほとんどない」 + 「ない」

◆「家を探するとき」が半数を超える

「家を探するとき」が51.2%と最も多く、次いで、「仕事をしているとき」(41.7%)、「電車やバスなどに乗っているとき」(25.0%)と続いている。

図Ⅲ－９．差別を受けた時の状況

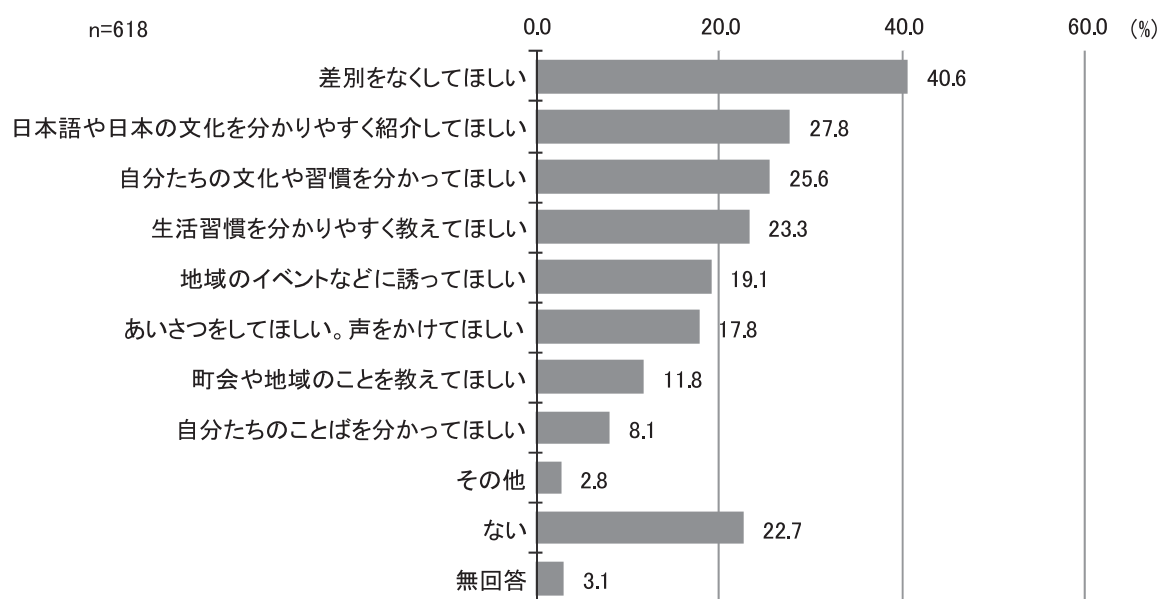


(9) 日本人にしてほしいこと

◆「差別をなくしてほしい」がほぼ4割

「差別をなくしてほしい」が40.6%と最も多く、次いで、「日本語や日本の文化を分かりやすく紹介してほしい」(27.8%)、「自分たちの文化や習慣を分かってほしい」(25.6%)と続いている。

図Ⅲ-10. 日本人にしてほしいこと



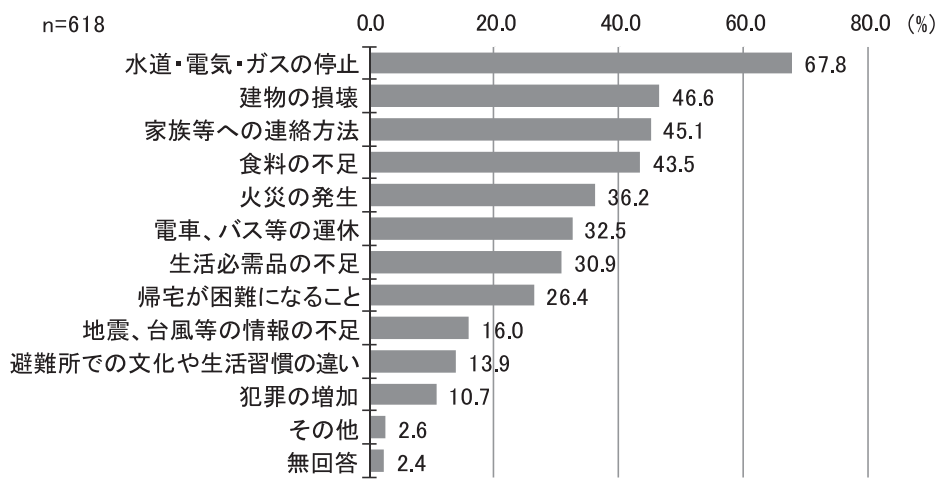
IV. 地震、台風等への対応について

(1) 地震、台風等の発生時に不安なこと

◆「水道・電気・ガスの停止」が最も不安

「水道・電気・ガスの停止」が 67.8%で最も多い。次いで、「建物の損壊」(46.6%)、「家族等への連絡方法」(45.1%)、「食料の不足」(43.5%)と続いている。

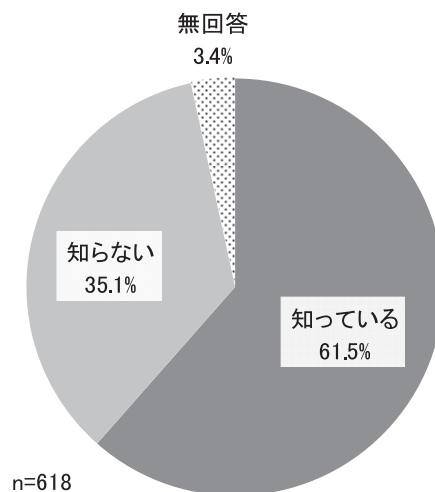
図IV-1. 地震、台風等の発生時に不安なこと



(2) 避難場所の認知度

◆「知っている」が6割を超える

図IV-2. 避難場所の認知度

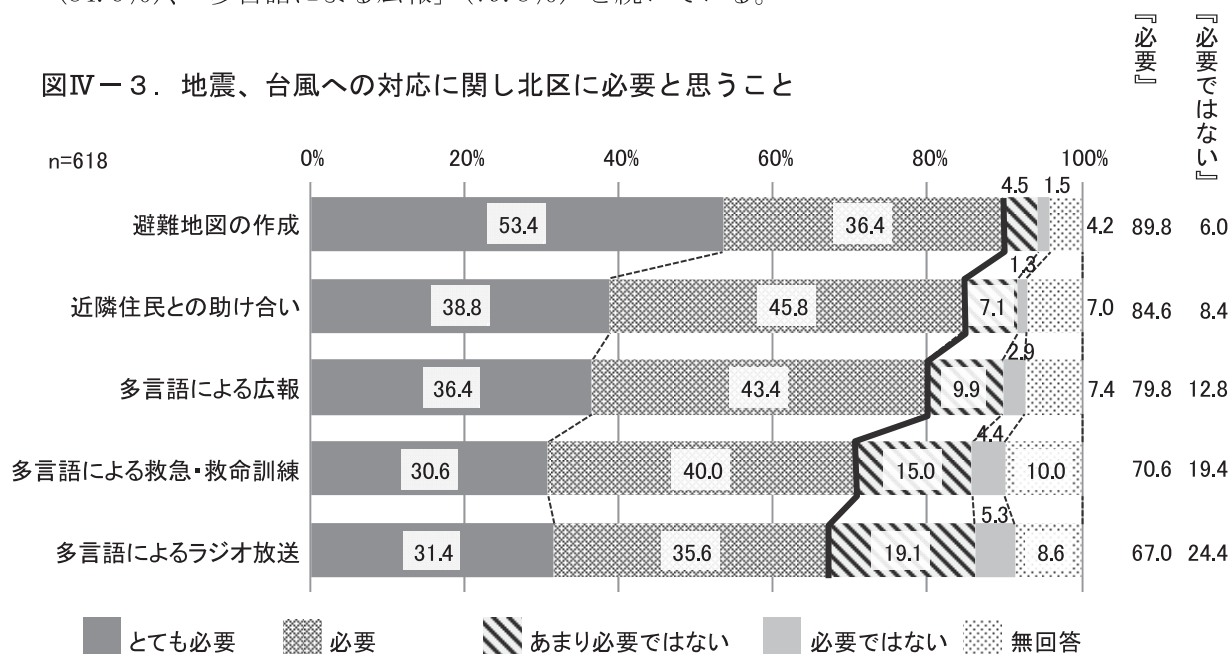


(3) 北区が必要な対応

◆「避難地図の作成」が最も必要

「避難地図の作成」が89.8%と最も『必要』であり、次いで、「近隣住民との助け合い」(84.6%)、「多言語による広報」(79.8%)と続いている。

図IV-3. 地震、台風への対応に関し北区に必要なと思うこと



『必要』 = 「とても必要」 + 「必要」

『必要ではない』 = 「あまり必要ではない」 + 「必要ではない」

V. 子育てや教育について

(1) 15歳以下の子どもの有無

表V-1. 15歳以下の子どもの有無

項目	回答者数	割合
いる	185	29.9%
いない	433	70.1%

(2) 通園・通学の有無

表V-2. 通園、通学の有無

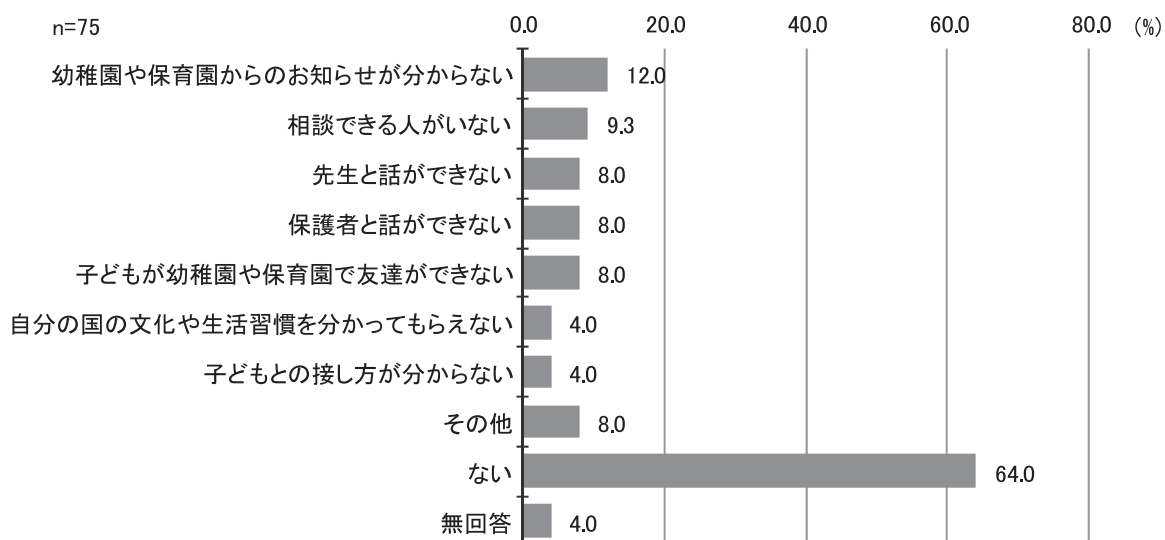
項目	回答者数	割合
学校	106	57.3%
保育園や幼稚園	75	40.5%
行っていない	29	15.7%
無回答	2	1.1%

(3) 保育園・幼稚園で困っていること

◆「ない」が最も多い

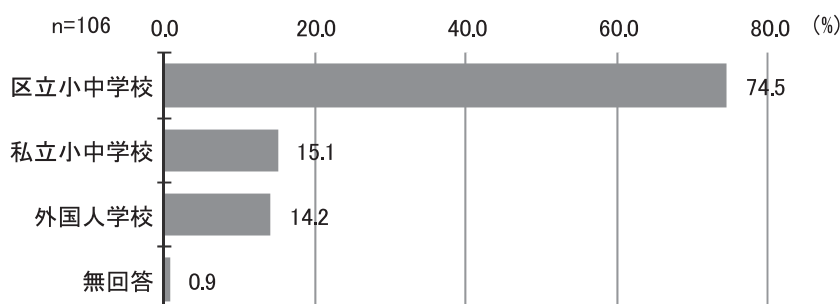
「ない」が64.0%と最も高い割合を占めている。困っていることとしては、「幼稚園や保育園からのお知らせが分からない」が12.0%と最も多く、次いで、「相談できる人がいない」(9.3%)、「先生と話ができない」、「保護者と話ができない」、「子どもが幼稚園や保育園で友達ができない」がいずれも8.0%と続いている。

図V-1. 保育園、幼稚園で困っていること



(4) 通っている小中学校の種別

図V-2. 通っている小中学校の種別

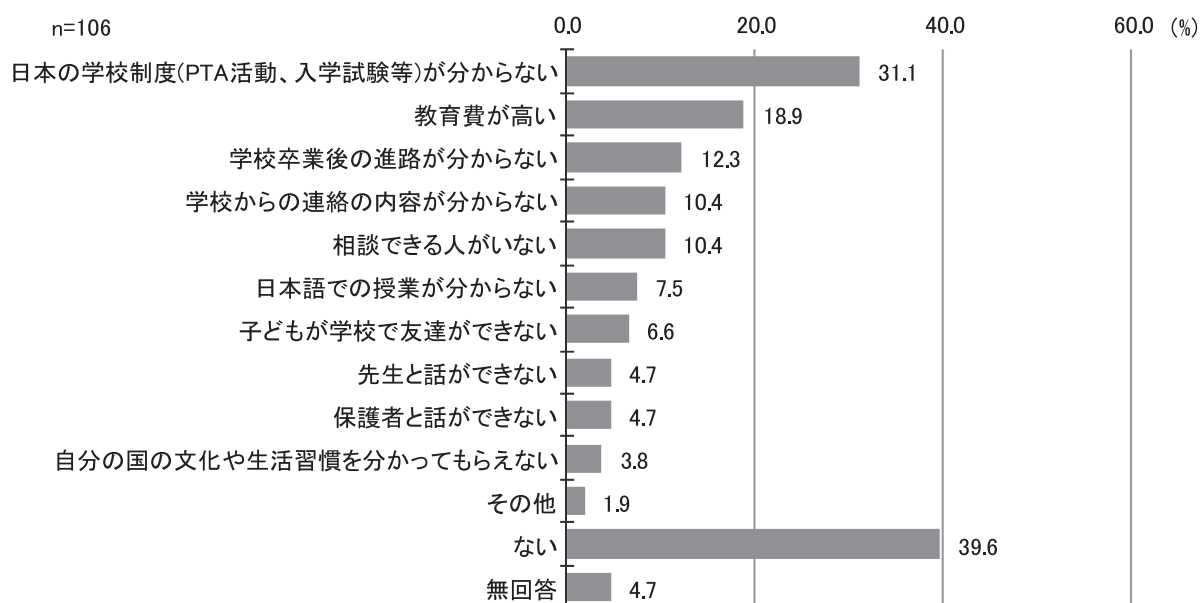


(5) 学校で困っていること

◆学校制度が分からないことが最も困る

「ない」が39.6%と最も多い。困っていることとしては、「日本の学校制度(P T A活動・入学試験等)が分からない」が31.1%と最も多く、次いで「教育費が高い」(18.9%)と続いている。

図V-3. 学校で困っていること

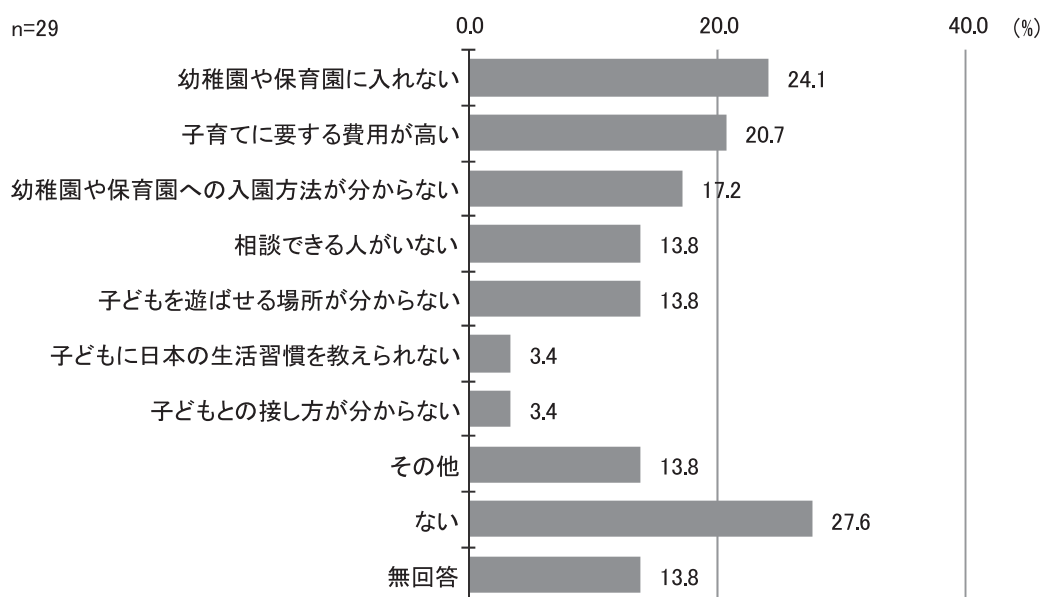


(6) 子育てで困っていること

◆幼稚園や保育園に入れないことが最も困る

困っていることとしては、「幼稚園や保育園に入れない」が24.1%と最も多く、次いで、「子育てに要する費用が高い」(20.7%)、「幼稚園や保育園への入園方法が分からない」(17.2%)と続いている。

図V-4. 子育てで困っていること



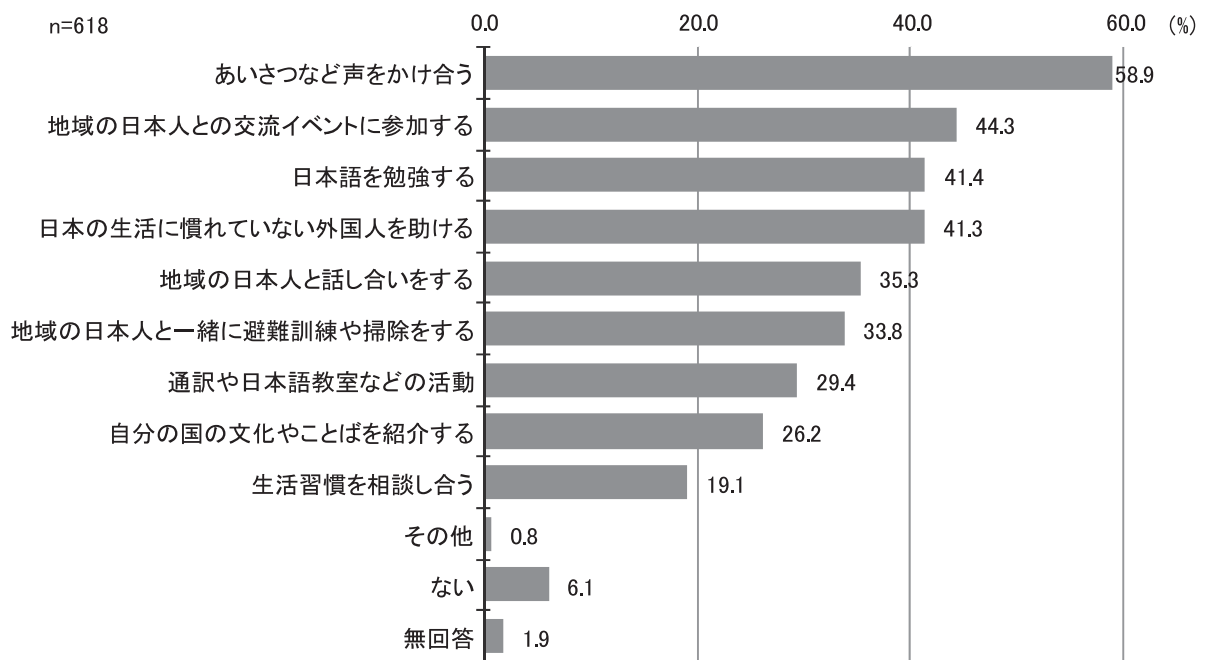
VI. 多文化共生社会について

(1) 日本人と生活するためにできること

◆「あいさつなど声をかけ合う」が6割近く

「あいさつなど声をかけ合う」が58.9%と最も高い割合を占めており、次いで、「地域の日本人との交流イベントに参加する」(44.3%)、「日本語を勉強する」(41.4%)と続いている。

図VI-1. 北区で日本人と生活するためにできること

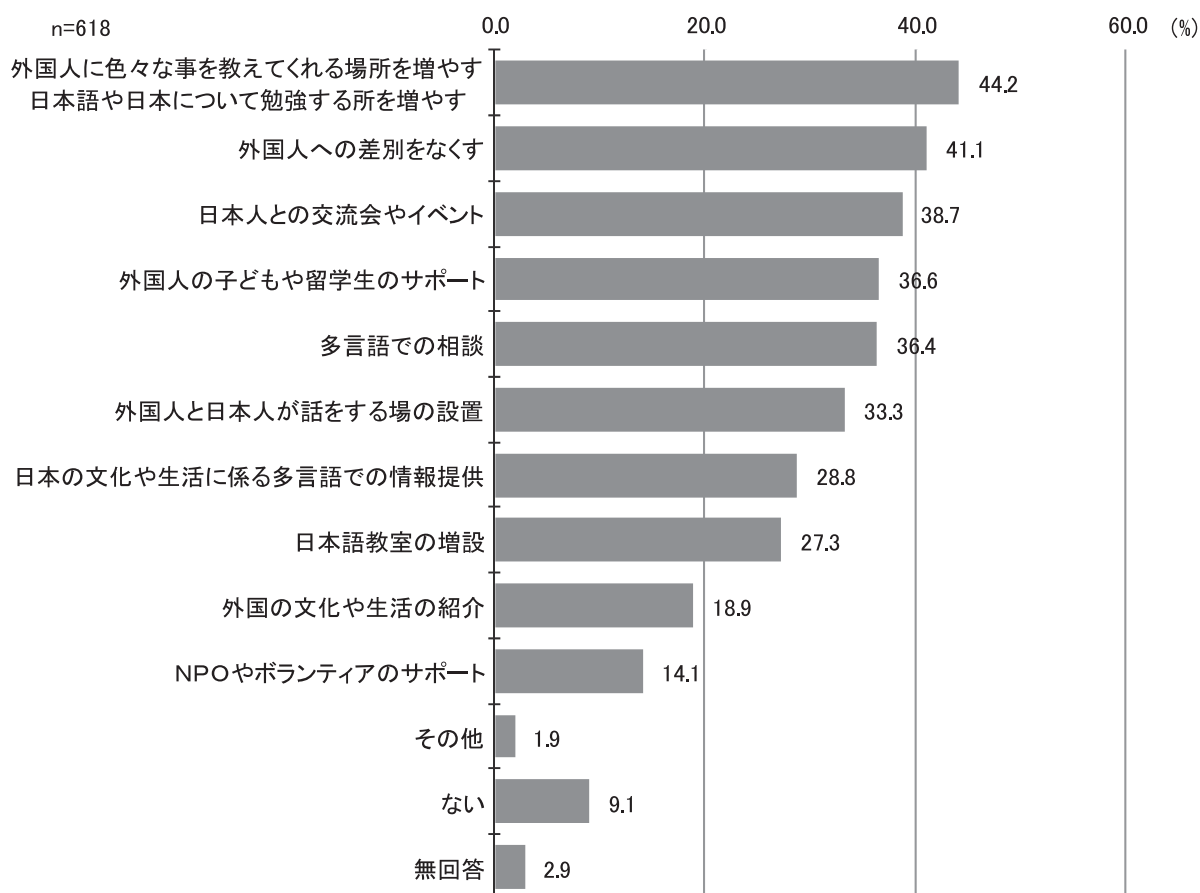


(2) 北区への要望

◆外国人の支援場所や日本語の学習場所の提供が必要

「外国人に色々な事を教えてくれる場所を増やす。日本語や日本について勉強する所を増やす。」が44.2%と最も高く、次いで、「外国人への差別をなくす」(41.1%)、「日本人との交流会やイベント」(38.7%)と続いている。

図VI-2. 北区への要望



北区外国人意識・意向調査 報告書
(概要版)

令和2年(2020年)3月

刊行物登録番号

31-1-169

発行 北区総務部総務課

北区王子本町1-15-22

電話 03(3908)8623(ダイヤルイン)

調査分析 株式会社タイム・エージェント

東京都渋谷区円山町6-8

電話 03(3770)6821(代表)